揖斐郡学校保健会のあゆみ













令和8年度　揖斐郡学校保健会

揖斐郡学校保健会の歴史とあゆみ

Ⅰ　揖斐郡学校保健会設立の願い及び経緯

（１）　揖斐郡学校保健会の目的

＜創設時＞

- 「子どもたちの健康を地域一丸で守る」という強い使命感のもとに生まれ、郡内の子どもたちの健康を守り、豊かな保健教育を推進するため、長年にわたり独自の歩みを続けてきた。

＜現在＞

- 郡内小中学校の学校保健の充実向上につとめ、関係者相互の密接な連携・協力のもとに、児童生徒及び職員の健康保持増進並びに、保健教育の振興を図る（令和８年度「郡学校保健会規約」）
- 目的達成のために「学校保健の普及、啓発」、「学校保健に関する事業の企画及び実施」、「学校保健推進に関する調査研究」、「学校保健関係者の研修」、「その他必要な事業」に取り組んでいる。

（２）　揖斐郡学校保健会の設立の背景と取組

①　＜揖斐郡学校保健会設立時期の様子＞

- 1958 年（昭和 33 年）に「学校保健法」が制定されたことを受け、岐阜県内では翌昭和 34 年に県レベルの学校保健会が成立した。それに呼応する形で、揖斐郡内でも医師会・歯科医師会・薬剤師会の「三師会」と、小中学校の校長会、養護教諭部会、教育委員会などが手を取り合い、郡単位での組織化（＝揖斐郡学校保健会の結成）が進められた。
  ※『岐阜県学校保健史』などの公的な記録において、揖斐郡学校保健会の具体的な「設立年」は親組織である岐阜県学校保健会が発足した 1959 年（昭和 34 年）の前後、昭和 30 年代前半から中頃にかけてと位置づけられている。
- 創立当時は、現代のように冷暖房や整った手洗い場があるわけではなく、学校の衛生環境（水質や便所の衛生、教室の採光など）をいかに改善するかが急務であり、学校薬剤師を中心とした環境衛生調査が始まった。
- 学校で孤立しがちだった養護教諭（保健室の先生）を地域医療が全面的に支え、初期の時代から、郡三師会の医師・歯科医師・薬剤師と、学校の養護教諭が直接ひざを突き合わせて話し合う「交流会」が熱心に行われた。
- 当時は、寄生虫対策やトラコーマ（目の感染症）、児童の栄養失調、むし歯の蔓延など、クリアすべき課題が山積していました。学校現場のリアルな疑問や困りごとに、地域の専門医が直接指導・助言を行うこのスタイルは、揖斐郡の学校保健の質の高さを決定づける伝統となった。
- 当時は交通の便が今ほど良くなかった山間地域（旧徳山村や旧藤橋村など）も多く、へき地の学校まで学校医や学校歯科医が赴き、子どもたちの健康診断を行うための巡回体制の確立に、創立期の関係者は心血を注ぐなど、「三師会」と学校現場の強い結びつきのもと行った。
- 創立期からの地道な健診や環境衛生の積み重ねが、その後の「う歯（虫歯）予防」の先進的な取り組みや、現代の ICT を活用した学校保健の効率化へと脈々と受け継がれた。

②　＜揖斐郡学校保健会の歴史＞

- 揖斐郡学校保健会は、時代の変化や健康課題の多様化（近年のアレルギー対策など）に対応しながらも、「医師・歯科医師・薬剤師の先生方と、学校現場がダイレクトにつながり、郡が一つになって子どもを見守る」という、発足当時からの温かい教育的志向が一貫して受け継がれている。
- 事務局の設置： 初期の頃から、郡内の教育研修を管轄する事務局（現在の揖斐郡教育研修センター内など）に拠点を置き、行政と医療、学校が直接顔を合わせる「地域密着型の連携」を大切にした運営体制が敷かれてきた。

（ｉ）設立と地域ネットワークの構築

- 昭和 33 年の学校保健法制定前後から、揖斐郡内（現在の揖斐川町・大野町・池田町）の小中学校、専門職（学校医・学校歯科医・学校薬剤師）、行政が一体となった組織化が模索された。
- 郡内の各町村が密に連携し、子どもたちの健康診断、う歯（虫歯）予防、環境衛生の改善に向けた巡回指導や研究体制が戦後早い段階から整えられていった。

（ii）揖斐郡独自の健康課題へのアプローチ

- 揖斐郡は地理的な広がり（山間部から平野部まで）を持つことから、以下のような地域特有の活動に力を入れてきた歴史がある。
- へき地・山間部における学校保健の充実：旧徳山村や旧藤橋村などを含む広大な山間地域の学校に対し、学校医の巡回体制の確保や、児童生徒の健康格差をなくすための取り組みがなされた。
- 寄生虫卵検査から虫歯予防への転換：昭和 30 年代～40 年代の大きな課題であった寄生虫対策がいち早く一段落したのち、揖斐郡ではフッ化物洗口の先駆的な試みや、学校歯科医と連携した「全郡を挙げたう歯予防」が活発に行われ、県内でも先進的なモデルとなった。

（iii）児童生徒の健康・体力統計誌『いびの子のからだ』の発行

- 揖斐郡学校保健会初期から、郡内の児童生徒の健康状態や体力の変化を克変化を克明に記録し続けた『いびの子のからだ』の編集・発行事業に取り組んだ。
- 単に健康診断を行うだけでなく、そのデータを郡全体で集計・分析し、数値として見える化することで「いびの子どもたちの身体の課題は何か（むし歯の多さや、当時の体格の傾向など）」を地域全体で共有し、次の保健指導に活かせるようにした。

※現在（第７３号を超える長寿誌）に至るまで脈々と受け継がれている。

（iv）学校環境衛生調査と「歯の健康」への注力

- 昭和 33 年の学校保健法制定以降、学校の環境（教室の採光、換気、水質など）を科学的に検査することが求められ、郡薬剤師会（学校薬剤師）の指導のもと、検査機材もまだ十分でない時代から、郡内の全学校を巡回し、衛生環境の向上に努めた。
- 戦後の砂糖の普及に伴い激増した児童のむし歯対策として、「歯の健康優良児表彰」などの啓発イベントを初期から積極的に展開し、子どもたち自身に健康への意識を持たせる「健康教育」を実践した。

（v）揖斐郡学校保健研修総会及び郡三師会と養護教諭等の交流会の定期的な実施

- 現場の教職員（特に養護教諭）や学校医らの研究実践を発表する「揖斐郡学校保健研究大会」を毎年７月～８月に開催し、地域ぐるみの健康教育や指導技術の向上や学校間・町村間の情報共有の場として重要な役割を果たしている。
- 毎年２月に「郡三師会と養護教諭等の交流会」を実施し、養護教諭が出した質問に対して郡三師会の先生に回答、指導していただき、養護教諭が専門的な知識の裏付けのもとに自信をもって日々の指導にあたれるようにしている。

２　揖斐郡学校保健会の事業について（歴史と現在）

（１）いびの子のからだ

- 昭和から平成にかけ、揖斐郡学校保健会は子どもたちの健康実態に即した多様な事業を継続し、地域の保健水準の向上に貢献してきたが、揖斐郡学校保健会創設時からの事業として「いびの子のからだ」の発刊があげられる。

郡内の児童生徒の健康状態や生活習慣の調査結果をまとめ、指導の基礎資料とする機関誌の編集

- 令和８年度（２０２７年は第７３号　１年に１度の発行→第１号発行は１９５５年（昭和３０年））

現在揖斐郡学校保健会事務局に残っているもっとも古い「いびの子のからだ」は昭和５１年版の第２４号に発行されている。



＜昭和５１年当時の揖斐郡の学校＞

揖斐小　大和小　北方小　清水小　小島小　谷汲小　横蔵小　長瀬小　大野小　西小　中小　南小
温知小　八幡小　宮地小　養基小　六合小　中央小　美束小　久瀬小　小津小　公正小　横山小
杉原小　坂内小　徳山小
２６小学校　（※令和８年度は１７小学校）
揖斐川中　北和中　谷汲中　大野中　揖東中　池田中　春日中　久瀬中　横山中　杉原中
坂内中　徳山中　１２中学校　（令和８年度は６中学校）
昭和５１年度の小中　３８校　→　令和８年度は　２３校に

＜昭和５１年　第２４号の巻頭言＞
“いびの子のからだ“今回第２４号をもって紹介いたします。
体力づくりが今日ほど大きな問題として学校は勿論社会のすみずみにわたり盛んにおこなわれていることは何といっても喜ばしいことです。どの学校も教育目標の一つに体力づくりをとり入れ、日頃丈夫な体つくりに努力頂いており深く感謝いたします。
おかげさまにて本年度の実態をながめて見ますと、体力づくりが地について実態に即して継続的になされており、子どもたちの体位、体力も一段と向上して来ていることは本当に各位のご尽力の賜であります。資料を更に吟味して頂き常に伸びなやみになっている点については一段とご検討のほどお願い申し上げます。
この誌の編集に当たっては、体力づくりのそれぞれの委員の方々と教育会のご支援ご協力に対して深くお礼申し上げます。
昭和５２年１月　養教部会顧問　田中　俊一　郡体力づくり　会長　長柄　五郎

＜目次＞
年齢別・男女在籍一覧表　疾病異常罹患数及び罹患率（小・中）
学校別視力異常者率　う歯保有状況　う歯保有率の推移　体格判定極座式体格把握図
地区別（北東部・北部・中部・南部・東部・西部）体格及び変遷図
身長・体重・胸囲・座高（小・中）　運動能力テスト種目別平均値（学年別・地域別）
スポーツテスト比較表（国・県・郡）　山間部・平坦部の比較　スポーツテスト優秀者氏名
学校別リレー結果　郡陸上競技大会記録　郡水泳大会記録　郡中体連総合体育大会成績表

＜令和７年度第７２号の巻頭言＞
皆様におかれましては、日々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年度も学校保健会編集委員のご尽力により、「いびの子のからだ」第７２号が刊行されました。
揖斐郡におきましても、全国的な少子化の波は避けられず、複式学級の設置や学校の統廃合が現実の課題となっています。こうした変化は単に教育体制の再編を意味するだけでなく、子どもたちの学びや生活環境、さらには地域社会のつながりにも大きな影響を及ぼします。児童生徒数が減少する中だからこそ、一人ひとりの健康や成長をこれまで以上に丁寧に見守り、支えていくことが必要です。
「いびの子のからだ」は、疾病・発育状況・体力テストなどの客観的なデータを通して、子どもたちの現在を把握する大切な資料です。今後、学校の形が変わっていくとしても、このような資料を基盤として、学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの心身の健康を守り育む取り組みを継続していくことが何より重要です。
少子化という社会的課題の中でも、子どもたち一人ひとりの未来は地域の未来そのものです。本冊子が、その健やかな成長を支えるための道しるべとなることを願っております。
最後になりましたが、発刊にあたりご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。
令和８年２月　揖斐郡学校保健会　副会長　金森　豊
（医師会→歯科医師会→薬剤師会の順で巻頭言）

＜目次＞
巻頭言「はじめに」（医師会→歯科医師会→薬剤師会の順で巻頭言）
健康状態　疾病・異常被患者数　疾病・異常被患率　う歯の状況　（養教部会いびの子のからだ担当）
発育の状況　肥満度による体格のようす　（郡学校保健会事務局）
小学校新体力テスト・・・ 郡平均の推移　郡平均と県平均との比較と考察　（郡小体育主任代表）
揖斐郡栄養教諭・学校栄養職員部会より　（郡栄養教諭部会部長）

令和７年度　保健関係表彰の記録　（郡学校保健会事務局）
あとがき　　いびの子のからだ第７２号編集委員長（養教部会顧問校長）

＜平成１３年度＞


H13　歯の健康優良児事業


H13　郡学校保健会での表彰

歯の健康優良児は学校から候補児童を上げ、郡歯科医師会による二次審査（実地審査）を行って優良児童を決定した。

（２）揖斐郡学校保健研修総会

①　揖斐郡学校保健会　講演の記録

	揖斐郡学校保健研修総会	三師会・養護教諭交流会
令和８年度 総会　　7/29 交流会　2/10	演題 「こどものアレルギーの最近の話題 ～アナフィラキシーを中心に～」 講師　岐阜大学附属病院　小児科　臨床教授　准教授　アレルギーセンター長 川本　典生　先生	演題 講師
令和７年度	演題：「児童生徒の体力・運動能力の維持・向上について考えておきたいこと」 講師：中部学院大学　スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科教授 有川　　一　先生	演題　「学校保健安全員会の運営の仕方や三師会・関係機関の連携について」 講師　西濃教育事務所　教育支援課　　課長補佐　山田　雄一朗　先生
令和６年度	「スマホ・ゲーム・ネットの使用に伴う問題とその対応～家族や学校でできるネット・スマホ・ゲーム依存にならない方法～」　NPO 法人日本次世代育成支援協会　鷲津秀樹先生	「保健室経営やこれからの養護教諭にもとめられるもの」 岐阜県教育委員会　体育健康課 阪野　きよみ　先生
令和５年度	「トランスジェンダー、性別不合（性同一性障害）の理解と支援 ～治療をふまえて～」 講師：ＮＰＯ法人　ＡＳＴＡ様 （ライフヒストリーを含む） 岐阜大学医学部看護学科　教授 井關 敦子 様	「緊急時の対応と準備」 揖斐郡消防本部　警防課　救急救命士 宇佐美　毅　様 「学校から医療機関への適切な連携について」 いびがわ診療所　　西脇　健太郎先生
令和４年度	『コロナ禍におけるこどもたち～小児発達外来の現場から～』 こころとそだちのクリニック あすなろ院長 各務原病院　精神科医師（非常勤） 加藤　智美　先生	「GIGA スクール構想と目の健康について、目に関する最近の話題など」 岐阜県眼科医会会長　佐久間仁先生
令和３年度	コロナウィルス感染症のため中止	「学校における新型コロナウィルス感染症と子どもへのワクチン接種について」 谷汲中央診療所　西脇　健太郎　先生 TEAMS によるオンラインで実施
令和２年度	コロナウィルス感染症のため中止	コロナウィルス感染症のため中止
令和元年度	「ネット・ゲーム依存から子どもたちを守るには」 各務原病院　　天野雄平先生	「感染症と闘う　克服か共存か」 矢嶋小児科・小児循環器クリニック 院長　矢嶋　茂裕　先生
平成３０年度	「日本のたばこと揖斐防煙教室」 多代クリニック院長　　多代友紀先生	「成長期における運動器障害」 若原整形外科副院長　若原和彦先生

平成２９年度	「学校歯科保健は子どもの将来を担う」 恩田歯科医院　恩田　眞司　先生	揖斐厚生病院小児科部長 伊藤貴美子先生　「成長障害の見方」
平成２８年度	「子供の皮膚を守る」 揖斐厚生病院皮膚科部長 藤広　満智子先生	「思春期の月経異常」 岐阜大学附属病院産婦人科 波多野香代子先生
平成２７年度	「医薬品の正しい使い方に関する指導状況及びそのポイント」 岐阜薬科大学実践薬学大講座病院薬学研修室教授　　寺町　ひとみ先生	「食物アレルギーをどう診断し、管理するのか」 小児アレルギークリニック　竹中学先生

平成２４年度講演の様子　　令和５年度講演の様子　　令和７年度講演の様子







②揖斐郡学校保健研修総会の内容

＜１＞平成２１年度揖斐郡学校保健研修総会

- 平成２１年８月５日（水）　１３：４０～１６：１５
- 谷汲サンサンホール
- 対象者　揖斐郡内　校医(内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科) 学校歯科医、学校薬剤師 小・中学校長、保健主事、養護教諭、学校栄養職員、体育主任、保健体育関係教員、部活動指導者、各小中学校ＰＴＡ会長、学校保健委員　　約１５０名

(1)　開会の辞　　郡 PTA 連合会会長
(2)　挨　　拶　　郡学校保健会会長
(3)　表　　彰　　学校保健会功績者　歯の優良児童　学校環境衛生活動優良校
(4)　歯の優良児童の講評　　郡学校歯科担当理事
(5)　学校環境衛生活動の講評　　郡学校薬剤師会会長
(6)　講　　演　　講師紹介　郡教育長会代表
　　演　題　　「学校事故の現状と事故防止啓発」 講師　宗宮　三次先生(日本スポーツ振興センター)
(7) お礼の言葉 及び 閉会の辞　　郡小中学校長会長

- 平成２１年度には現在とほぼ同じ内容の総会が行われているが、令和３年度よりは総会のみにとどまらず、総会の講演内容や参加者に実施したアンケート内容を、郡学校保健会だよりとして各校に配付したり、郡学校保健会 HP にアップしたりし、総会で学んだことを郡内各学校に広め、揖斐郡の学校保健の取組を高めるようにしている。

（３）郡三師会と養護教諭との交流会について



③ 平成２１年度の交流会

平成２１年度は「医師会と養護教諭の交流会」として実施され、講話のみが行われた。

講師：養南病院　　副院長　　井川　典克　様 「発達障がいについて」　H23 医師会＆養教交流会

④ 平成２３年度　　揖斐郡医師会の先生方と養護教諭の交流会（平成２４年２月８日（水））

講師　若原整形外科　院長　若原　和男　様　演題 「発育期のスポーツ医学について」

平成２３年度は講演の後、「成長痛・オスグット病」、「マイコプラズマ肺炎」、「今年度のインフルエンザの動向」についての質疑応答が行われた。

※平成２３年度の交流会には、医師会より小林　収先生、若原　和男先生、野原　良二先生、土屋

十次 先生、多代　友紀先生、歯科医師会より乗松　隆行先生が参加。

⑤ 平成２８年度　「郡三師会と養護教諭との交流会」　（平成２９年２月１日（水））

- 平成２８年度より「３師会と養護教諭との交流会」として開催されている。（はなももで実施）
- 岐阜大学医学部附属病院　産婦人科　　波多野　香代子　先生の講演
- 平成２８年度より養護教諭の質問に三師会の先生が回答・指導する交流会が位置づき、薬剤師会には「使用期限が切れた薬品の廃棄方法及び気をつけることはどんなことか」の質問が出されている。

⑥ 令和３年度～７年度　「郡三師会と養護教諭との交流会」

＜令和３年度＞

- コロナウィルス感染症のためオンラインでの総会実施となり、谷汲中央診療所の西脇健太郎先生の「学校における新型コロナウィルス感染症と子どもへのワクチン接種について」
の講演を行った。
- 養教の質問に三師会の先生が回答・指導する交流会は三師会の先生に文書回答していただき、回答内容を各校の養護教諭に送付した。



＜令和４年度＞

- 講師　岐阜県眼科医会　会長　佐久間　仁　様
「GIGA スクール構想と目の健康について、目に関する最近の話題など」（主に近視・色覚についての話）
- 令和４年度より養教から出された質問に事前に三師会の先生に文書回答していただき、それをもとに「交流会ノート」を作成して、養教に事前送付し、文書回答に目を通して上で、当日の指導を受ける現在の形にした。

＜令和５年度＞

- 講演①　講師　　揖斐郡消防本部　警防課　　救急救命士　　宇佐美　毅　様
・緊急時、救急車が来るまでの養護教諭としての対応（けがの場合・病気の場合）
・過去の事例をもとにした適切な対応と考える必要があると思えた学校の対応　等
講演②　講師　　いびがわ診療所　　西脇　健太郎　先生
・救急処置で大切なこと、・救急処置の基本
・救急処置の実際(外科的なもの・内科的なもの)
・医師として養護教諭や学校に望むこと（緊急時・体制づくりなど）



R7 郡三師会と養護教諭との交流会」

＜令和６年度＞

- 講師　（岐阜県教育委員会　体育健康課　阪野　きよみ先生）
「これからの養護教諭に求められるもの」
※少子化が進み、保護者の要望が強まる中での保健室経営について

＜令和７年度＞

- 講師　　西濃教育事務所　教育支援課　　課長補佐　　山田　雄一朗　先生
「学校保健安全員会の運営の仕方や三師会・関係機関の連携について」

（４）歯の健康優良児表彰

＜平成２２年度＞

- ６年生児童 の男・女　各１名を歯の健康優良児として各校が推薦する。
- 郡内の小学校２０校の６年生７５１名を対象に、各校で第１次審査，男子１６名、女子１８名が第２次審査へ進み、６月末に揖斐郡教育研修センターに集め、歯科医師２名が審査をして
最優秀賞　男子１名、女子１名　　優秀賞　男子３名、女子３名

を選出した。

- 審査当日、優良児童の表彰及び歯科医師による講評・講話を行った。
  ※この形で令和２年度まで実施されてきた。

＜令和３年度より＞

- 令和３年度、４年度はコロナウイルス感染症のため、児童を集めて二次審査を行うことが難しかったため、各校から２名の歯の健康優良児を推薦し、推薦された児童を郡学校保健会で歯の健康優良児として認定して賞状を作成し、各校で表彰した。
- コロナウイルス感染症がおさまった後も従来の一次審査→二次審査の形は負担が大きいため、各校から２名（男女を問わない）を推薦して、歯の健康優良児としている。
- また各校の学校歯科医に歯科健診後にコメントを頂き、それを総括する形で、郡学校保健会研修総会の場で郡歯科医師会会長より講評を行っている。
- 歯の健康優良児は総会リーフレット、いびの子のからだの表彰記録への記載と郡学校保健会 HP へのアップを行っている。

（５） 郡学校環境衛生調査

- 郡学校環境衛生調査は一次審査（書面審査）と、一次審査で選出された優秀校を対象とした二次審査（実地審査）を行っている。
  審査員：郡薬剤師会会長、郡学校保健会担当校長、郡養護教諭部会顧問校長、郡学保事務局
- 郡学校環境衛生調査は平成１１年度より実施されており、平成１１年度～２３年度は優良校７校～１０校（特選校・努力校を含む）の表彰をしている。
- 平成２４年度～平成３０年度までは優良校５～７校（特選校を含む）の表彰を行った。
- 令和元年度よりは最優秀校１校、優秀校３～４校、特選校（前年・一昨年の最優秀校）を選出している。　※特選校は該当年度の優秀賞審査対象外となる。
- 最優秀校・優秀校は郡学校保健研修総会の場で表彰を行い、郡薬剤師会会長が全体講評をおこなっている。
- 令和２年度、令和３年度はコロナウイルス感染症のため、郡学校環境衛生調査を中止にした。

【平成２１年度（１８年前）と現在の郡学校保健会の事業を比べると】

- 平成２１年度と令和８年度の郡学校保健会の実施している事業はほぼ同じであるが、事業を単に実施するだけでなく、事業の成果や事業に参加した教職員の声をホームページや郡学校会だより等を通じて広く郡内に広めることを通して１つ１つの郡学校保健会事業の成果を上げることができてきている。

３　揖斐郡学校保健会組織

（１）＜平成２１年度　郡学校保健会理事＞

団 体 名 ・ 役 職	氏名	本会役員	住所・所属
揖斐郡 医師会　会長		会長	
揖斐郡 教育会　会長		副会長	
揖斐歯科医師会　会長		副会長	
揖斐郡学校薬剤師会 会長		副会長	
揖斐郡教育長会　会長		副会長	
揖斐郡ＰＴＡ連合会 会長		理事	
揖斐郡 小中学校長会 会長		理事	
学保・保主会顧問		理事	
養護教諭部会顧問		理事	
揖斐郡 保健主事会　部長		理事	
揖斐郡 養護教諭部会 部長		理事	
揖斐郡 体育主任会　小体代表		理事	
中体代表		理事	
揖斐郡 栄養職員部会 部長		理事	

庶務会計		
監事（会計監査）		

部会がなくなり部会代表が輪番で理事を務める選出へ
３町教委学保担当が理事に

＜令和８年度　揖斐郡学校保健会組織＞

団　体　名・役　職		氏　名	本会の役職	所 属 等
揖斐郡医師会	医師会会長		会　長	
揖斐郡歯科医師会	歯科医師会会長		副会長	
揖斐郡薬剤師会	薬剤師会会長		副会長	
揖斐郡教育会(揖斐郡教育長会)	教育会会長		副会長	
揖斐郡ＰＴＡ連合会 *該当年度の郡Ｐ連会長*	会　長		理　事	
郡学保担当校長が校長会代表となる *※郡小中校長会で決定*	郡学保担当校長 （郡保主会担当）		理　事	
	郡養教部会顧問		理　事	
揖斐郡保健主事会代表 郡保健主事会の輪番による （R8：大和小　R9:宮地小）	代　表		理　事	
揖斐郡養護教諭部会 養護教諭部会で決定	部　長		理　事	
揖斐郡体育主任会 郡体育部会顧問校長（小島小）の学校の体育主任	小中体代表		理　事	
揖斐郡栄養教諭部会 栄養教諭部会で決定	部　長		理　事	
揖斐川町教委・学校教育課	学校保健担当		理　事	郡教育会会長の町以外の町の学校教育担当（町教委で選出）

【郡学校保健会事務局】

揖斐郡学校保健会事務局	事務局（兼会計）	揖斐郡教育研修センター主幹

【会計監査】

郡ＰＴＡ連合会会長	郡学校保健会担当校長

４　岐阜県学校保健研究大会

（１）平成２年　岐阜県学校保健研究大会（兼：第１１回東海ブロック学校保健研究大会





令和２年の県学校保健研究大会は西濃地区の学校保健会と揖斐郡学校保健会で共催開会式・表彰式・講演を午前中



に、昼食時にアトラクションを実施し、午後分科会を行った。
Ⅰ　講演　性について考える～世紀末の病、エイズを通して～

岐阜農林高校　養護教諭　　松井　せつ子　様

Ⅱ　分科会は１１分科会　岐阜県内の学校保健関係者が分担して、各分科会で提案発表



（第１分科会）
- 心に問題をもつ児童の発見と指導について
  ～退行している児童とのかかわりを通して（下多度小）
- 心に問題を持つ子の実態と究明（串原小）

（第２分科会）
- 心に問題をもつ児童の発見と指導について
  ～保健室へ心の問題を持って来室する生徒の発見と援助指導について～
  提案者：揖斐郡養護教諭部会　　細野　由美子　先生
- 心に問題をもつ児童の発見と指導について
  ～事例を通しての保健室でのかかわり～（土岐北高）

（第３分科会）
- 子供の性意識と性教育の進め方
  ～性教育を通していのちを大切にし、仲良く楽しい生活ができる子～　（養老小）
- 望ましい生に関する指導のあり方～学級活動の中での、担任による指導実践～　（馬瀬中）



（第４分科会）
- 思春期の心と性　～望ましい男女関係～　（大垣市立西中）
- 養護教諭が行う性に関する指導　（岐阜三田高）

（第５分科会）
- 生命尊重と思いやりの心を育てるには
  ～児童の発達段階に応じた性に関する指導の在り方～（関ケ原北小）
- 学級活動における性に関する指導の実践　（松倉中）

（第６分科会）
- 健康な生活習慣を高める指導～自ら意識的に口腔衛生に努める子をめざして～（牧小）
- 自分のからだを知り、すすんで健康な習慣に高めていける子
  ～う歯予防を中心に～　（大湫小）

（第７分科会）
- 自己管理のできる保健指導～健康な生活に結びつく学級活動のありかた～（日新小）
- 自己管理のできる保健指導～自立性を育てる歯科指導（白川北小）

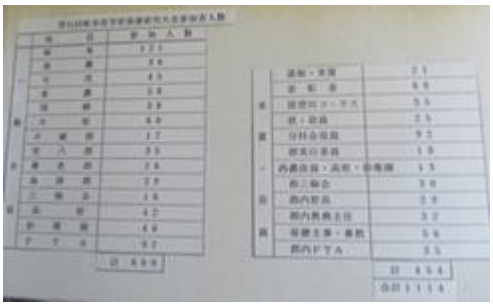
（第８分科会）
- 児童・職員が一体となって取り組む環境衛生～手洗いと教室環境を中心にして～（宇留生小）
- 生徒の VS 活動による健康的な学習環境づくり～心豊かな学習環境づくり～（各務ヶ原・中央中）

（第９分科会）
- 学校保健委員会の望ましい在り方を求めて（揖斐郡北西部保健研究会）
- 教職員・児童生徒・学校に機能する学校保健委員会の取組（方県小）

（第１０分科会）
- う歯予防の実践化を図る指導～間食指導を通して～（揖斐郡南部保健研究会）
- 疾病予防の実践化を図る指導～規則正しい排便のしつけ～　（揖斐川幼稚園）

（第１１分科会）
- 地域ぐるみで保健活動の推進
  ～地域ぐるみで交通安全指導～　（大野中 PTA）
- 地域ぐるみの保健活動の推進
  ～親子での健康づくりを求めて～　（三枝小 PTA）





９：５０～１０：５０　開会式・表彰式
１１：００～１２：００　講演
１２：１０～１３：１０　昼食・アトラクション
１３：１０～１５：１０　分科会
１５：１０～１５：２０　閉会式

参加者　　1,114 人

西濃地区より　大垣市　６０人、不破郡１７人、安八郡３５人、養老郡２６人、海津郡２９人
揖斐郡（郡三師会・郡内校長・教務主任・保健主事・養教・PTA 等）１８２人が参加

（２）平成２６年　岐阜県歯科研究大会（揖斐郡大会）

- 平成 26 年度（2014 年度）１１月に大野町総合町民センターなどを会場として「第 56 回 岐阜県学校歯科保健研究大会（揖斐郡大会）」が開催されました。

（３）令和４年　第６１回　岐阜県学校保健研究大会（揖斐郡大会）



- 令和４年１１月２７日（日）に揖斐川町地域交流センター「はなもも」を会場に「第６１回岐阜県学校保健研究大会（揖斐郡大会）」を「ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成
～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～」のテーマのもと実施した。

✧　明確な柱の確立: 県大会の成果をさらに発展させる形で、「郡三師会と学校が連携した学校保健事業の充実」という強固な活動指針（柱）が改めて定められた。
✧　情報発信のデジタル化: この時期を境に「揖斐郡学校保健会ホームページ」が新たに開設され、従来のアナログな情報共有から、各校の保健主事や養護教諭、保護者へ迅速に情報や書式を届け
✧　第６１回 岐阜県学校保健研究大会
✧　（※大会後揖斐郡学校保健会のホームページを使ったオンライン配信も実施）
✧
✧　１　大会テーマ

ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成
～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～

２　期日　　令和４年１１月２７日（日）
３　会場　　揖斐川町地域交流センター　「はなもも」
　　〒501-0692　岐阜県揖斐郡揖斐川町上南方２７番地７
　　Tel(0585)22-1120
４　主催　　岐阜県学校保健会　　岐阜県教育委員会
５　主管　　揖斐郡学校保健会
６　後援　　揖斐郡医師会　　揖斐歯科医師会　　揖斐郡薬剤師会
　　揖斐郡教育会　　揖斐川町教育委員会
　　大野町教育委員会　　池田町教育委員会



７　日程

12:20	12:45	13:25	13:30	14:15	14:25	15:25
受付	開会 15:40 式 表彰式	準備	**研究発表 Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ**	休憩	**記念講演**	閉会式

＜大会テーマ＞
ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～

揖斐郡学校保健会　全体構想

第６１回岐阜県学校保健研究大会

研究主題	ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成　～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～

＜主題設定の理由＞

- ポストコロナ時代は、人と人、人と空間、人と働き方など、様々な場面で暮らし方の質が大きく変容し、健康教育が単に健康増進というだけでなく命や生き方に直結する時代である。**揖斐郡学校保健会では、そうした時代にあって「児童生徒が、自らの健康に関心をもち、主体的に健康の維持・増進に努める健康教育」が重要で、「郡三師会と学校が連携した健康づくり」が必要であると考えた。**
- 新学習指導要領では、「現在だけでなく生涯を通じて、自他の健康に関する課題を発見し、その解決に向けて思考・判断・表現し、心身の健康の保持増進や明るく豊かな生活をに主体的に取り組む児童を育成する」というヘルスリテラシーの重要性について述べられているが、**揖斐郡学校保健会でも「児童生徒が自らの健康を守ると共に、身の回りの人々の健康にも意識をもったり働きかけ、健康で生活できる未来を手にする」のためには「必要な情報を収集する力」、「情報を理解する力」、「報を活用しようとする意欲」、「情報を活用する力」、「情報を発信する力」　の「ヘルスリテラシーに関わる５つの力」の育成が重要であると考えた。**

揖斐郡学校保健会育てたいポストコロナを生き抜く力をもった児童生徒	● 自らの健康に関心をもち、自ら健康の維持増進に努めようとする意欲や態度をもって主体的な健康づくりを行うことで、健康な生活を送ることができる児童生徒 ● 学校や家庭など集団としての健康づくりにおいて、身の回りの人々に対しても健康の維持増進に向け、働きかけができる児童生徒

研究仮説	郡三師会と学校が連携して「５つの力」を育てる健康づくりを推進すれば、ポストコロナ時代を生き抜くことのできる児童生徒が育つ。

ポストコロナを生き抜くための５つの力		
1	必要な情報を収集する力	情報の真偽を正しく判断し、必要な情報を収集することができる
2	情報を理解する力	収集した情報や学んだことを、適切に解釈し、理解することができる
3	情報を活用しようとする意欲	収集した情報を自他のために効果的に活用しようとすることができる
4	情報を活用する力	収集した情報を効果的に活用し、自分の命や健康を進んで守ることができる
5	情報を発信する力	収集した情報を身近な人々に発信し、健康の保持増進に寄与することができる

研究部会Ⅰ　揖斐郡保健主事部会	研究部会Ⅱ　揖斐郡養護教諭部会	研究部会Ⅲ　揖斐郡学校保健会
自らの健康を守るとともに、身の回りの人々の健康にも働きかけることができる児童生徒を育成する授業や教育活動の工夫	「生涯にわたり主体的に健康な生活をつくりだす子の育成」 ～高い危機管理意識をもち、養護教諭の専門性を生かした保健活動の在り方～	「郡三師会と学校の連携による健康づくりや学校保健事業の充実を図る郡学校保健活動」のマネジメントと継続的な支援や取組の在り方
５つの力を育てる三師会と学校が連携した学校保健教育のマネジメント	５つの力を育てる養護教諭としての専門性を生かした三師会と学校が連携した学校保健活動の推進	５つの力を育てる学校保健活動が郡内で実践されるための三師会と学校が連携した学校保健活動のマネジメントとそのための支援
研究内容		
● ポストコロナを生き抜く児童生徒を育て学校体制を構築するための三師会の力を導入した学校保健指導のマネジメント ● 三師会と連携した児童生徒に専門的な知識を与える方途や養護教諭等と連携した委員会活動のマネジメント ● ５つの力を育てる指導をＰＤＣＡサイクルの中へ位置づけた学校保健計画の作成や管理・運営	● 学んだことを活用した主体的な健康づくりを目指した集団指導 ● 自分自身の健康問題に気付き、主体的な解決を目指した個別の保健指導 ● 身近な人々に発信し、健康の保持増進への寄与を目指した児童生徒の組織活動	三師会の専門的な力を学校の保健会活動へ導入するための支援や事業の実施 ● 揖斐郡学校保健全体構想の作成による郡三師会と学校が連携した学校保健の取組のマネジメント ● 揖斐郡内の学校保健関係者の学校保健に関する指導の専門性を高めるためのその時にもとめられるテーマを取り上げた講演の実施 ● 学校の郡三師会と学校が連携した学校保健に関する取組を郡全体で共有するための働きかけ
具体的実践		
■ 三師会からの正しい情報に基づき、科学的な実験を取り入れた児童生徒にも分かりやすい手洗い指導 ■ 手洗いの意義を意識化させる郡学校保健会・郡医師会・郡薬剤師会監修の手洗いポスターの作成 ■ ICT を活用した三師会の指導や、学校保健活動の成果を保護者・家族と共有する実践 ■ 児童や学校の状況、課題の改善を図ると共に、主体的に健康を守る意欲や態度を育成するための、三師会と連携した新しい実践	■ 主体的な健康づくりを目指した集団指導 ・発達段階ごとにねらいを明確にした町統一の指導用資料の作成と実践 ・指導が必要な内容を焦点化するアンケートの実施と指導の成果の見届け ■ 主体的な健康づくりを目指した個別の保健指導 ・実態の把握と個別対象者を抽出するためのアンケートの工夫 ・健康課題を抱える児童生徒を個別対象者とした指導計画の立案と三師会等の評価を取り入れた指導方法の工夫 ■ 他者の働きかけを目指した児童生徒の組織活動 ・ ICTを活用した学校薬剤師を招いての学習発表会の実施や学校保健安全委員会への児童生徒の参加 ・自己有用感の実感する児童保健委員会の活動の自己・他者評価	■ 郡学校保健会による郡三師会と郡内の小中学校の連携や郡の学校保健の重点・具体的な健康づくりの取組が郡として共通理解されるための支援や郡学校保健会事業の推進 ■ 郡三師会と養護教諭との交流会 ・養護教諭が健康教育や専門的な知識を身に付けられるような医療関係者を招いての講演や日常での指導生まれる不安や質問に郡三師会がそれぞれの専門的な立場から回答する交流会 ・交流会の内容や養護教諭が学んだことを広げ交流会の内容を日常活動に生かすための支援 ■ 郡学校保研修総会での講演の実施 ・養護教諭だけでなく、広く学校保健関係者が学校保健活動への理解や専門的知識の習得をする講演の実施 ■郡内の学校保健の取組のデータベース化の一括管理と有効活用 ・学校保健会が各校で行われている三師会と学校が連携した保健教育や学校保健に関する優れた実践を広く郡内に紹介し、郡内で共有できる体制づくり

郡三師会と学校の連携による健康づくりを推進するための広報･ＰＲ活動	・揖斐郡学校保健会ホームページでの郡学校保健会の取組や各校の優れた実践の紹介 ・揖斐郡学校保健会だよりの定期的な発行と郡三師会・各学校への配付

＜研究発表＞

研究部会Ⅰ　揖斐郡保健主事部会

自らの健康を守るとともに、身の周りの人々の健康にも意識をもったり、働きかけたりすることができる児童・生徒の育成　～保健主事のマネジメントの在り方と、三師会との連携による健康教育の推進～

研究部会Ⅱ　揖斐郡養護教諭部会

「生涯にわたり主体的に健康な生活をつくりだす子の育成」
～高い危機管理意識をもち、養護教諭の専門性を生かした保健活動の在り方～

研究部会Ⅲ　揖斐郡学校保健会

郡が一体となって「ポストコロナを生き抜く５つの力」を育てる学校保健活動の推進
～郡学校保健会による郡全体の健康づくりの充実を図るマネジメントや支援を通して～

＜記念講演 ＞

『コロナ禍におけるこどもたち　～小児発達外来の現場から～』

講師　　こころとそだちのクリニック あすなろ　院長
　　各務原病院　精神科医師（非常勤）　　加藤　智美　先生

□第６１回岐阜県学校保健研究大会を終えるにあたり

第６１回岐阜県学校保健研究大会実行委員長　　野田　　宜輝



新型コロナウイルス感染流行下、第６１回岐阜県学校保健会研究大会が揖斐郡で開催されました。想い起こせば、令和２年４月に第１回実行委員会が開催され、それ以降何度も委員会を開催しました。しかし、コロナ下のため、参加人数、開催形式（昼食をとっていただくのかどうか）について県学校保健会の方針が決まらず、最も大切な予算も決まらないため、２通りの計画を併行して進めておりました。

過去西濃地区開催の岐阜県学校保健研究大会をみると、他の学校保健会から補助をもらってやっと収支が合っており、今回は変えていきたいとの思いが強くありました。令和４年５月になり県学校保健会会長の英断により、以前より時間を短縮し、12 時 45 分開会 15 時 40 分閉会、昼食なしという基本計画が認められました。その結果やっと予算が決定しました。その後もコロナ第７波により、出席者数の再検討や Web のみでの開催の検討を行ない、さらに会場を新型コロナワクチン集団接種で使用する事になり、他会場案が再浮上するなど、直前まで様々な問題の対応に追われておりました。また研究発表の見直し変更が直前まで何度もあり、担当の先生方は、自分の時間を削って対応する事になり、多大な負担をかけることになりました。このような苦難を乗り越え、本日大会を終えることができ本当に感慨深いものがあります。



本大会は、「ポストコロナ時代を生き抜く力を持った児童生徒の育成～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～」のテーマの下、研究発表では、自らの健康を守ると共に、周りの人々の健康にも働きかける事ができる児童生徒を育成するために保健主事、養護教諭が三師会と連携しながら実践してきた事に関する発表を行い、次に保健主事、養護教諭の取り組みに対して、学校保健会及び三師会がどのような支援や普及活動をしてきたのかについて発表しました。記念講演を行っていただいた「こころとそだちのクリニックあすなろ」の院長加藤智美先生には、新型コロナにかからないようにという措置の一方で、そのデメリットがあまりに軽視されていないか、休校、部活や行事の中止がもたらすその後一生にわたるかもしれない負の影響を、大人は考える必要があるのではないかという内容のお話をお願いしたいと依頼し、話しにくい内容にもかかわらず快く受けていただきました。心より感謝いたします。

この研究大会が、子供たちが自分の心身を意識し、守り、生き抜く力をつけてもらえるようになるための大人の役割を考えていく機会になり、各地での学校と三師会の関わりのヒントになったのなら幸いです。

最後になりましたが、岐阜県学校保健会様、岐阜県教育委員会様のご支援に感謝申し上げます。さらに揖斐郡教育委員会様、揖斐郡三師会、揖斐郡学校保健会の力添えでここまで準備が進められましたこと、お礼申し上げます。

第６１回県学校保健研究大会　　揖斐郡学校保健会の取組の成果と課題

（１）成果

〇県学校保健大会に向けて、郡としての研究主題を「ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生

徒の育成～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～」と設定することで、育てたい児童生徒の姿やつけたい力が明確になり、郡三師会と学校との連携や、学校間の連携が強まり、揖斐郡として共通理解のもと指導にあたることができた。

○従来は郡学校保健会理事会での共通理解にとどまりなかなか広がらなかった学校保健に関する方針や取組の重点が、第６１回岐阜県学校保健研究大会実行委員会の組織により、所属する学校保健主事部会・養護教諭部会・栄養教諭（学校栄養職員）部会・体育主任部会を中心に郡全体に広まり、郡の研究主題を意識した実践や郡三師会と学校が連携した実践が積極的に行われるようになった。

○保健主事会の５つの力を育てる三師会と学校が連携した学校保健教育のマネジメント、養護教諭部会の５つの力を育てる養護教諭としての専門性を生かした三師会と学校が連携した学校保健活動の推進、郡学校保健会の５つの力を育てる学校保健活動が郡内で実践されるための三師会と学校が連携した学校保健活動の普及及び支援などの取組が研究構想図としてまとめられることで、目指す姿やそこに至る取組の工夫を連携して行えるようになった。

○手洗いの意義を意識化させる郡学校保健会・郡医師会・郡薬剤師会監修の手洗いポスターの作成
ICT を活用した三師会の指導や学校保健活動の成果を保護者・家族と共有する実践などの児童や学校の状況や課題の改善を図ると共に、主体的に健康を守る意欲や態度を育成するための、三師会と連携した新しい実践が生み出された。

○主体的な健康づくりを目指した集団指導や個別の保健指導の推進、自らの健康づくりや身の回りの人々の健康にも意識を向けた働きかけを行う児童生徒を育成する組織的な保健活動の推進や委員会活動が積極的に推進されるようになった。

○揖斐郡学校保健会として「三師会の専門的な力を学校の保健会活動に活用するための支援や事業の実施」が推進するための支援を行う視点や方途をでき、揖斐郡の学校保健関係者の学校保健に関する指導の専門性を高め、日常の実践を支える力となるような「郡三師会と養護教諭との交流会」や「揖斐郡教育研究総会」の講演や交流会などの事業の在り方を工夫できるようになった。

○実践の成果を伝える「揖斐郡学校保健会だより」、「揖斐郡学校保健会ホームページ」をもったことで実践の成果を郡内にとどまらず広く外部に向けて発信できるようになるとともに、揖斐郡学校保健会の活動やアンケートの実施等の場面でＩＣＴを活用した働きかけができるようにたった

（２）課題

●郡三師会と学校の連携を通してポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成」を図るための指導において郡三師会と学校の連携、保健主事会・養護教諭部会・郡学校保健会のそれぞれの役割（学校保健活動のマネジメント＝学校保健活動の推進＝学校保健活動の普及や支援）を明確にした連携は図れたが、学校保健活動の推進はそれに関わる学校関係者全員の連携が必要であり、校長による学校の全体構想への学校保健指導の位置づけ、保健主事による保健指導全体計画や保健・安全指導年間計画の作成などのマネジメント、それを受けた養護教諭の実践や担任教諭による保健安全に関する授業や指導、ＰＴＡ活動の中への保健や健康に関する行事の位置づけ、教育委員会の支援が必要であるので、揖斐郡として学校保健関係者の連携をさらに強いものにしていく必要がある。

●養護教諭、栄養教諭と異なり保健主事、体育主任は校内分掌で年度ごとに変わり、揖斐郡学校保健会理事のメンバーも年度ごとに変わる。第６１回岐阜県学校保健研究大会に向けて積み上げてきた研究や実践の成果が継続していくように、郡学校保健会理事会・揖斐郡学校保健会事務局が中心となって研究の成果をデータベース化し揖斐郡の財産とするとともに実践の成果を郡内で共有できるような積極的な働きかけを行っていく必要がある。

●児童生徒が生きていく時代は急速にＩＣＴ化、グローバル化が進む予測不能の時代である。そうした時代を生き抜いていけるよう学校においては「主体的・対話的で深い学び」により「知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性」を育てる必要があるが、それは同時にコロナ　禍以降の人と人、人と空間、人と働き方など、様々な場面で暮らし方の質は大きく変容した「ポス　トコロナ」の時代であり、「自らの健康に関心をもち、自ら健康の維持増進に努めようとする意欲　や態度をもって主体的な健康づくりを行うことで、健康な生活を送ることができること」、「学校　や家庭など集団としての健康づくりにおいて、身の回りの人々に対しても健康の維持増進に向け、　働きかけができること」が同時に求められる。そうしたとらえに立ち、令和５年度以降も郡三師会　と学校が連携して児童生徒に「ポストコロナの時代を生き抜く力」を育てる指導を行っていく必要がある。

●揖斐郡学校保健会の事業には継続して続いている事業があるが、時代の変容とともに児童生徒に求められる力が大きく変わってきているので、事業の実施にあたっては事業の本来の目的に立ち返りつつ事業の在り方を問い直していくことが必要であり、必要に応じて新たな事業を起こしたり思い切った改革を行う必要がある。常に「児童生徒の育成」の視点にたって「郡三師会と学校が連携した学校保健活動」が推進されていくよう今後さらに揖斐郡学校保健会が「揖斐郡の学校保健活動」をリード、支援していくようなマネジメント機能を強化する必要がある。